

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和6年度 吉城高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年6月4日(火) 13:30～15:00
*15:00～学校設定科目「地域プロジェクト学習」授業参観
- 3 開催場所 吉城高等学校 会議室
- 4 参加者
(敬称略)

会 長	沖畑 康子	
副 会 長	桐山 吉衛	飛騨市区会長会等連絡協議会会長
委 員	都竹 淳也	飛騨市長
	竹林 千恵子	R4本校育友会役員
	中村 健吾	飛騨古川青年会議所理事長
	柴田 駿一	吉城高等学校同窓会会長
	牧田 美奈	R5本校育友会役員
	葛井 孝弘	吉城高等学校育友会会長
	見田 祐琴	吉城高等学校育友会女性部長
オブザーバー	布俣 正也	岐阜県議会議員
学 校 側	野中 賀雄	校長
	下嶋 和長	教頭
	田本 里美	事務長
	小澤 耕	教務主任
	河野 和代	生徒指導主事
	井田 和実	進路指導主事
	桐谷 直嗣	特別活動部長
	近藤 恵子	キャリア推進副部長
	門前 雅美	理数科主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 会長、副会長の選出について

全委員より承認が得られた。

(2) 「学校経営計画」について

学校長、分掌長から令和6年度の学校経営全般について説明

- 意見 1：入学生が減ってきている。原因があつて減少しているのだと思う。これについても対策を立てる必要がある。
- 意見 2：学校経営の中に「魅力ある高校づくり」とあるが、「魅力」を高校としては、どのように考えているのか。
- 回答：高校では、自分で夢を見つけ、それをどう叶えるのか考え、達成を目指して行動していくことが大切であると考え。そのプロセスの中で探究する力をつける。それが、YCKの中で行っている探究活動の基礎基本であり、探究のプロセスである。その力を身につけていけるのが本校の魅力であると考えている。
- 意見 3：今後少子化が進む中で、地域の中の立ち位置として、吉城高校というのはどういう学校であるべきなのかということについては議論し直さなくてはならない。「魅力ある」って何だと言われて、一言でいえるところまで議論を中期的な展望を見据えてする必要があるのではないか。

(3) 「スクール・ミッション」について

- 意見 1：YCKを深掘りし、もっと地域に密着した地域に溶け込んだ探究活動が出来れば特色になると思う
- 意見 2：「地域」を飛騨市でくくられると、市外から通っている生徒が締め出されている感じがする。「自分で住んでいる地元を愛せる」というイメージでとらえ、もっと「地元」を強調するべきではないか。
- 意見 3：主体的に考えて、自ら行動できる人材を輩出できる高校だと思っている。教育活動として大切なのは、多様な学びの機会の提供と、自分たちで考えたことを実践できる機会の提供ということにつくる。学びのフィールドを提供することが、飛騨市が吉城高校と連携する理由でもある。吉城高校は飛騨市を舞台に課題を発見し、解決することを学んでいく。それが吉城高校の特徴となっていく。
- 意見 4：高校の学びに期待することは、社会の一員としての自覚と実践力の育成である。自分中心の考え方から、社会の一員として住みよい社会を作ろうという意識と実践力を鍛えてほしい。ただ夢を描くだけではなく、実践力を伸ばすことが大切である。そして意思決定の場に必ず自分が参加をするという学びが大切である。
- 意見 5：生徒たちの内に秘めた能力を重視してほしい。「ふるさと」に誇りをもって行動できる、「ふるさと」のリーダーになれることが最終的な目標ではないか。

(4) 学校設定科目「地域プロジェクト学習」授業参観について

会議後、授業見学シアンケートを回収。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会において、会長、副会長が選出され、学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。また、「スクール・ミッション」について、委員から吉城高校にどのようなことを期待するか意見を得た。協議会後には、学校設定科目である「地域プロジェクト学習」の授業を中心に全クラスの授業を参観した。指摘のあった点について見直しを図りたい。第2回学校運営協議会では「理数探究」の授業を参観する予定である。